

Ⅹ 各特定課題の取組を推進するための協働・普及啓発

Ⅰ 第2期自然再生計画の取組・成果・課題の概要

自然再生の取組は、県民参加・県民協働により進めることが必要であり、自然再生の取組への理解と県民参加を促進するための普及啓発も必要です。そのため、自然再生委員会との連携や丹沢大山クリーンピア21など協働の枠組み等による協働を進め、自然環境保全センターや神奈川県立ビジターセンター等による普及啓発を行いました。

今後、これまでの取組を継続するとともに、将来の自然再生の担い手を育成する取組も進める必要があります。

Ⅱ 第3期自然再生計画の施策の基本方向

第3期自然再生計画では、自然再生委員会との連携やこれまでの協働の取組を継続するとともに、新たな協働の取組を検討します。また、神奈川県自然環境保全センター及び神奈川県立ビジターセンターを自然再生活動に係る協働と普及啓発の拠点として活用するとともに、自然再生委員会のホームページや丹沢大山自然環境情報ステーション（e-Tanzawa）を活用して、自然再生に関する情報の蓄積と発信を行います。

Ⅲ 主要施策ごとの事業実施状況

1 丹沢大山自然再生委員会を通じた連携

① 自然再生プロジェクトの推進

【事業内容】

自然再生委員会の構成員が取り組む「自然再生プロジェクト」について、技術・知見の提供、自然再生計画及び関連事業との調整等などの協力を行い、丹沢で自ら保全・再生活動を行う企業や団体等による計画的な自然再生活動に協力します。

<実施状況>

自然環境保全センターは、平成21年に県と締結した協定に基づき、丹沢県有林でサントリーホールディングス（株）が実施するサントリー「天然水の森 丹沢」自然再生プロジェクトの活動に対して、技術・情報提供などの協力を行った。

プロジェクトでは、第2自然再生期計画期間中に策定した自然再生プロジェクトの第1期5ヵ年計画（平成26年度～平成30年度）に沿って、間伐（列状、群状、帯状、定性）、植生保護柵、土壌保全工、作業用径路を施工した。

また、植生モニタリングと自動撮影カメラを用いたノウサギの生息状況調査を実施した結果、森林整備とシカの管理捕獲等により、ノウサギが好むモミジイチゴ等の植生が繁茂した環境が創出され、採餌行動を行う個体が多く確認された。さらには、植生保護柵内での食痕も確認されたことから、ノウサギが整備箇所を餌場として利用していることがわかった。



(写真) 平成30年度 定性間伐地 (整備直後)



(写真) 平成29年度 小面積皆伐地 (1年後)

<次期計画における基本的な方向性>

令和元年度に策定する、自然再生プロジェクトの第2期5ヵ年計画(令和元年度～令和5年度)に基づき活動が進むよう、引き続き関連事業との調整、技術・情報提供などの協力を行う。

② **重点** 団体等との協働による自然再生の取組の推進

【事業内容】

自然再生委員会が団体等と協働で行う自然再生活動の普及啓発や人材育成等の取組について、委員会の一員として参画するとともに、技術や情報の提供等により協力し、幅広い団体や企業等との協働や市民参加による自然再生を進めます。

また、自然環境(自然災害を含む。)や社会情勢の変化を踏まえながら順応的に自然再生を進めていくため、引き続き、自然再生委員会と連携・協働して、情報の収集や課題の抽出をしながら自然再生の取組を進めます。

<実施状況>

丹沢大山の自然再生の取組の普及啓発を図るため、自然環境保全センターは自然再生委員会の事務局として、平成30年度から「秦野丹沢まつり」に参加するとともに、自然再生委員会と各団体との共催による「森林探訪」などの活動を支援した。

自然再生委員会と丹沢自然保護協会の共催で毎年開催される丹沢フォーラム(自然再生の現地検討)に、県職員を講師として派遣し、県が実施している事業等について説明するなど、自然再生の取組について普及啓発を図った。

自然再生委員会と丹沢自然保護協会の共催で、二ノ塔等で実施された植樹活動に参加し、植樹にあたっての技術指導等を行うなど、自然再生活動への市民参加の促進に協力した。

また、丹沢大山自然再生委員会事業計画・評価専門部会兼調査専門部会として、平成28年度に整理した5つの課題(①人材育成、②取組のPR・普及啓発、③今後の人工林管理、④防災・減災、⑤永続的な野生動物保護管理)のうち、平成29年度は「今後の人工林管理」、平成30年度は「野生動物管理」「防災・減災」を取り上げ、県の取組状況などについて勉強会および現地調査、ワークショップ等を行い、議論を深めるとともに、課題の抽

出・整理を目標に進めた。

さらに、自然再生委員会主催の丹沢大山自然再生活動報告会や各種イベントにおいて広報等で協力し、平成30年度の活動報告会では、県の自然再生の取組状況を報告した。



(写真) 丹沢フォーラム (清川村 堂平)



(写真) 植樹活動 (秦野市 二ノ塔)

<今後の課題>

自然再生の取組について普及啓発を図ることができたが、自然再生委員会主体の取組は限定的であることから、団体との協働等による取組を一層進める必要がある。

<次期計画における基本的な方向性>

引き続き自然再生委員会の取組に協力するとともに、今後はこれまでの取組状況を踏まえ、県民協働の活動の幅が広がるよう、協働の取組の拡充等を検討する。

③ **FS** 学校教育との連携等による自然再生の担い手づくり

【事業内容】

自然再生委員会が学校教育等と連携して行う体験学習等への技術・情報提供や、大学との連携、環境学習活動を行う団体等との連携による自然再生の担い手づくりに協力します。

<実施状況>

ア ～高校生が取り組む！～丹沢やまみち再生体験

平成21年度から、県高校体育連盟と県教育委員会（指導部保健体育課）主催の「夏山情報交換会」において、県内の高校登山部に所属する高校生を対象に県職員が自然再生の取組を紹介した。

また、平成28年度まで同連盟と自然再生委員会、NPO法人みろく山の会が連携して行った登山道補修体験に職員派遣等を行って協力したが、平成29年度は諸事情により取組みを継続できなくなってしまったため、平成30年度は県職員が登山道の概要やオーバーユースによる維持管理の必要性等を説明しながら、既設の水切りに溜まった土砂の掻き出し作業を

実施した。

自然再生と登山の関係について普及啓発ができ、高校生に自然公園の適正利用について考えてもらう契機となった。

イ 森の学校

自然環境保全センターは、NPO法人丹沢自然保護協会が長年実施している森の学校に、平成26年度から自然再生委員会を通して協力した。自然体験や調査活動等により、小中学生に自然の仕組みについて知ってもらい、自然再生の必要性について考えるきっかけづくりを行った。

ウ ウォークラリーで学ぶ丹沢大山の森

自然環境保全センターは、将来の丹沢の自然環境の保全・再生を担う人材を育成するため、平成30年度から、NPO法人かながわ森林インストラクターの会が実施している「ウォークラリーで学ぶ丹沢大山の森」に、自然再生委員会を通じて協力した。県内の小学生を対象に、クイズ形式のウォークラリー（現地見学）を通して、丹沢の自然に親しんでもらいながら、自然環境に対する理解を深めた。

エ 教育機関や民間団体等からの依頼による視察受入や研修等

自然環境保全センターは、小学校、中学校、高等学校、大学等の教育機関や、民間団体等からの依頼を受け、施設内や自然再生事業地の視察の受入れや研修等を実施し、丹沢地域及び横浜等の都市部の教育機関への普及啓発を図った。



(写真) ～高校生が取り組む！～丹沢やまみち
再生体験（秦野市 大倉尾根）



(写真) ウォークラリーで学ぶ丹沢大山の森
（松田町 やどりき水源林）

<次期計画における基本的な方向性>

令和元年度から新たに、県高校体育連盟と自然再生委員会が連携した「高校生と取り組むレンジャー（巡視）体験」を実施し、自然公園指導員等が行っている巡視活動体験等を通じて、高校生に丹沢大山環境ボランティア活動者の現状や、丹沢が抱えている問題・自然再生

の取組みを考える契機としてもらうことで、次世代の環境人材育成を狙う。

また、引き続き自然再生委員会へ新たな活動を提案するなど、次世代が自然再生に関わるきっかけづくりを推進する。

2 県民協働の枠組みを通じた連携

① **重点** 丹沢大山クリーンピア21、丹沢の緑を育む集い、丹沢大山ボランティアネットワーク等による連携・協力

【事業内容】

丹沢大山クリーンピア21、丹沢の緑を育む集い、丹沢大山ボランティアネットワーク、協定に基づく協働事業といった協働の枠組みの一員として、引き続き植樹、美化活動、水場水質調査などに参画・協力するとともに、新たな協働の取組も検討します。（Ⅷ-2-①）

<実施状況>

Ⅷ-2-①（丹沢大山ボランティアネットワーク）、Ⅷ-3-①-エ（山岳ゴミの回収）に記載のほか、丹沢大山国定公園を中心とする山岳地域及び周辺地域の環境保全を図るとともに、「ゴミの持ち帰り運動」を推進するため、丹沢大山クリーンピア21^{*1}によるクリーンキャンペーンや構成員であるボランティア会員（団体）による清掃活動を実施した。

また、丹沢の緑を育む集い^{*2}により、植樹（二ノ塔山頂、菩提峠周辺）やウラジロモミの防護ネット補修（堂平）等を実施した。

各事業とも相互協力により実施されており、団体間の連携強化が図られ、自然公園内のゴミ処理等が促進された。

- ※1 丹沢大山クリーンピア21 丹沢大山地域周辺の良好な自然環境の保全に寄与するため、ゴミの持ち帰り運動を推進することを目的として、企業・各種団体及び行政機関等の協力のもと設立された。
- 2 丹沢の緑を育む集い 丹沢大山地域で植樹事業やウラジロモミ等をシカの影響から守るための防護ネット設置事業などをボランティアとの協働で行っている各種団体及び行政機関で構成されている。

表9-1 ウラジロモミ等防護ネット設置事業

年度	参加者数	補修本数
H29	27人	43本
H30	21人	108本
計	48人	151本



(写真) H30 丹沢の緑を育む集い
植樹活動（秦野市 菩提峠）

<今後の課題>

一部の団体の会員数が減少傾向であり、事業を維持するためには会員数の増加が必要となっている。

<次期計画における基本的な方向性>

県民協働は丹沢大山における自然環境保全活動に不可欠なものであるため、引き続き自然再生計画を推進する主要活動として取組を進め、さらに活動を活性化させるため、各団体の会員数の増加を促す。

3 協働・普及啓発の拠点の活用

① 神奈川県自然環境保全センターの自然再生活動への活用促進

【事業内容】

神奈川県自然環境保全センターについて、自然再生事業の順応的实施を支える機能を充実するとともに、野外施設及び展示施設を保全・再生活動の体験実習フィールドとして位置付けるなど、協働による自然再生活動や環境学習の拠点としての機能を高め、自然再生活動に取り組む団体・企業等による活用を促します。

<実施状況>

フィールドスタッフ（自然保護と自然体験の指導者）として活躍する人材を育てる養成講座（H29: 9回、H30: 9回）を行う一方で、身につけた知識や技術を発揮する活動実践の場として、自然環境保全センターの展示室、野外施設を活用した県民向けの観察会（H29:99回、H30:96回）を実施した。

クラフト教室、自然発見クラブ（H29: 4回、H30: 4回）、他機関からの依頼による自然保護や緑化等の研修会等（H29: 2回、H30: 2回）を通して、自然再生活動について考え、実践する契機としてもらった。

丹沢大山地域において自然環境保全にかかる活動を実践するボランティア団体による野外施設での調査研究や、学生等の研修の場として活用された。

近隣地域の教育委員会を通して、施設の紹介及び受け入れ体制を各小学校へ周知し、郊外学習等による利用を促進できた。

本館2階で自然再生等に関するパネル等を展示する「企画展」を開催し、丹沢地域の自然や歴史、文化等を知る契機としてもらった。（自然環境保全センター利用者数 H29:23,036人、H30:24,044人）

平成29年度、本館展示室に稜線部からの景観や里山の四季を仮想体験できるVR（ヴァーチャルリアリティ）ゴーグル^{※3}を2台、本館図書室と1階展示室に「丹沢大山デジタル写真館」^{※4}を設置した。また、平成30年度に、自然再生の取組に関する壁面展示パネルを全面的に刷新し、丹沢地域の自然再生の取組や歴史、文化等を知る契機としてもらった。

平成30年度から、図書室の常時開室に伴い、丹沢地域の地形ジオラマの展示を開始した。また、地形ジオラマを活用した自然環境保全センターの取組パネルを展示し、丹沢地域の自

然再生の取組を知る契機としてもらった。

施設を利用しやすくするため、平成29年度に野鳥の鳴き声を用いた人感スピーカーや施設案内を掲載したデジタルサイネージ^{※5}を設置するなど、施設の充実を図った。

- ※3 VRゴーグル 頭にかけて覗くと上下左右 360 度の映像が見わたせるゴーグル。
- 4 丹沢大山デジタル写真館 タッチパネルによりスライドショー形式で写真が閲覧できる液晶モニター。
- 5 デジタルサイネージ 従来の看板や紙のポスターに代え、液晶ディスプレイを用いて情報を発信するシステム。

表9-2 企画展実施状況

開催日時	テーマ
H29. 3. 7～4. 28	『無花粉スギ』ってなんだろう？～つらい花粉症をなくすために～ 無花粉スギに関する県の取組
H29. 4. 29～7. 2	自然は友だち～春夏編～ 動植物を観察した写真
H29. 7. 7～9. 30	きいてみたい昆虫のつづやき 昆虫の体の仕組みや色の美しさなどの拡大写真
H29. 10. 3～10. 29	『登ってなおした丹沢の道』ボランティア団体による登山道補修～その十年の歩みとこれから～ 登山道の補修作業に関する取組
H29. 11. 2～12. 24	神奈川県自然公園指尊員連絡会の活動紹介～美しい丹沢大山、汚すのも人、護るのも人～ 丹沢大山の現状と神奈川県自然公園指尊員連絡会の活動の様子
H30. 1. 5～4. 1	平成29年度緑化運動・育樹運動 ポスター原画・標語コンクール受賞作品展 絵画と標語で表現した子ども達の作品
H30. 4. 4～6. 29	水辺にすむ鳥の羽根と翼標本 ～江戸の人々も見ていた水鳥たち～ 様々な環境に生息している水鳥たちの羽根と翼の標本
H30. 7. 8～9. 23	NPO 法人かながわフィールドスタッフクラブの活動紹介 NPO 法人かながわフィールドスタッフクラブの活動の様子
H30. 10. 2～12. 16	丹沢のブナ林再生を目指して ブナ林の再生に向けた県の取組
H30. 12. 20 ～H31. 2. 28	植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌2018』のできるまでとこれから～ 生命の星・地球博物館で実施した特別展の巡回展示
H31. 3. 6～4. 25	平成30年度緑化運動・育樹運動 ポスター原画・標語コンクール受賞作品展 絵画と標語で表現した子ども達の作品



(写真) 丹沢地域の地形ジオラマ



(写真) 本館展示室壁面展示パネル

<次期計画における基本的な方向性>

平成30年度に刷新した壁面展示パネルに配架する解説リーフレット及び展示映像を作成し、一般公開を行うとともに、引き続き自然再生事業の順応的实施を支える機能を充実させ、野外施設及び展示施設を保全・再生活動の体験実習フィールドとして位置付けるなど、協働による自然再生活動や環境学習の拠点としての機能を高め、自然再生活動に取り組む団体・企業等による活用を促していく。

② 神奈川県立ビジターセンターの自然再生活動への活用

【事業内容】

神奈川県立ビジターセンターについて、神奈川県自然環境保全センターとの一層の連携を進めて普及啓発等を充実し、丹沢の自然再生に関する企画等を行うとともに、各地域で環境学習活動や保全・再生活動を行っている団体等の活動拠点として活用を図ります。

(Ⅷ-2-②)

<実施状況>

丹沢地域の自然保護関連機関の相互連携を図るため、「自然保護情報交換会」を開催し、情報共有を図った。

また、ビジターセンターとの連携の取組として、自然環境保全センターで実施した企画展の一部を巡回展示するとともに、丹沢で活動する様々な市民団体やNPO団体の活動拠点として、各団体が収集した情報を展示などにより来館者へ提供した。

表9-3 巡回展示実施状況

場所	開催日時	内容
西丹沢ビジターセンター (山北町中川)	H29. 5. 3～6. 29	『無花粉スギ』ってなんだろう?～つらい花粉症をなくすために～ 無花粉スギに関する県の取組
秦野ビジターセンター (秦野市堀山下)	H29. 11. 18～H30. 1. 28	
西丹沢ビジターセンター (山北町中川)	H29. 11. 3～11. 26	『登ってなおした丹沢の道』ボランティア団体による登山道補修～その十年の歩みとこれからについて～ 登山道の補修作業に関する取組

<次期計画における基本的な方向性>

引き続き、ビジターセンターと自然環境保全センターとの一層の連携を進めて普及啓発等を充実させ、丹沢の自然再生に関する企画等を行うとともに、丹沢で活動する様々な市民団体やNPO団体の活動拠点として活用を図る。

4 自然環境・自然再生情報の蓄積と発信・活用

① 自然再生情報の提供と丹沢大山自然環境情報ステーション(e-Tanzawa)の活用

【事業内容】
 丹沢の自然環境の現状や自然再生の取組に関する情報を蓄積し、科学的・順応的な事業実行と評価に活用します。また、県民理解の促進や、自然再生の取組をさらに広げるため、取りまとめた情報を元に丹沢大山自然環境情報ステーションにおいて取組状況や成果等を分かりやすく情報発信するとともに、引き続き自然再生委員会のホームページとも連携した情報発信を進めていきます。

<実施状況>

ア 自然環境情報ステーションの機能拡充

より適切な維持運営が行えるよう、第2期計画期間中に自然環境保全センターのWEBサイトと統合してリニューアルした丹沢大山自然環境情報ステーションのWEBサイトについて、自然再生プロジェクトの活動レポート、展示物や企画展及び巡回展示など、適宜更新を行い、自然再生の取組状況について最新の情報を提供するとともに、自然再生に関する普及啓発を促進した。

イ 県民向け情報提供

より効果的に、県民向けに取組の説明・普及啓発をすることができるよう、第2期自然再生計画及び、第3期自然再生計画（平成29年度）の実績と成果等を取りまとめた報告書を作成し、丹沢大山自然環境情報ステーションに掲載した。

ウ 自然再生委員会ホームページとの連携

自然再生委員会ホームページへ、パークレンジャーによる丹沢大山の自然環境や自然再生の取組に関する情報を提供し、県民への普及啓発を図るとともに、自然再生プロジェクトの

活動レポート等のリンク先を相互に掲載し、連携した情報発信を進めた。

ホームページへは、毎月約1,000～4,000回のアクセスがあり、自然再生に関する情報発信が促進された。



(写真) 自然再生委員会ホームページ

<次期計画における基本的な方向性>

引き続きWEBサイトの更新を継続し、自然環境情報ステーションの機能拡充を図るとともに、自然再生委員会のホームページへの情報提供を行い、連携した普及啓発を図る。